

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 21年 9月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	2875201499		
法人名	(有)日本健康管理システム		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	〒651-2109 神戸市西区前開南町2丁目13-6 (電話) 078-978-1421		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2009年8月20日	評価確定日	2009年9月25日

【情報提供票より】(平成21年7月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 6 月 17 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27 人	常勤 13人, 非常勤 14人, 常勤換算	18.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	3階建て	1～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(7月19日現在)

利用者人数	27名	男性	5名	女性	22名	
要介護1	4名	要介護2	12名			
要介護3	10名	要介護4	0名			
要介護5	0名	要支援2	1名			
年齢	平均	85歳	最低	74歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐野伊川谷病院 ひらの歯科
---------	---------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・ホームは駅近くの集合住宅が多い新興住宅地に位置している。自治会は組織されていないが、小学校、中学校、高等学校との交流を通して、ホームに対する地域の理解を広げてきた。最近自治会設立準備会が発足し、ホームにも呼びかけがあった。今後自治会活動を通じたより広い地域交流が期待される。ホームからの積極的な交流活動として「認知症サポーター養成講座」を計画し、運営推進委員会の住民代表の尽力により地域交流センターで開催できた。終了後、会場近くの住民参加者からホームへの見学希望があり、介護相談も寄せられた。今後もホームができる地域貢献活動を続けていきたいと考えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ・地域との交流活動として認知症講座を開催したが、今後もできることから活動の場を広げていきたいと考えている。玄関の鍵については、ホームの方針として昼間の開錠を決め、運営推進委員会で再検討し議決された上、家族に説明し了承された。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) ・リーダーがスタッフの意見を聞き、前回の評価内容との違いに注目して記入し、管理者がまとめた。職員は評価への取り組みについて、日々の業務の反省とケアを見つめ直す好機と考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) ・2ヶ月に1回開催。ホームの事業や利用者の状況報告が主であるが、評価結果と改善点も検討している。地域代表からは地元の歴史・文化や散歩に適した景勝地の紹介を受けたり、認知症講座の会場決定についても尽力をいただいた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) ・家族の来訪時やホームからの連絡時に意見や要望を聴いている。どんな小さいことでもすべて前向きに捉え、職員全員で対応を検討し、サービス向上のために活かすよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) ・小学校、中学校、高等学校との交流を続け、地域との連携を広げている。自治会設立の動きがあるので、より広い地域交流が期待される。住民対象の認知症講座の開催後に、参加者からホームの見学希望が出た上介護の相談も寄せられた。今後も地域との連携に努めていきたいと考えている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・法人の4つのグループホーム共通の理念をホールに掲げ、利用者の地域での暮らしを支え、一人ひとりの自尊心を大切に介護をめざしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・職員は毎日のカンファレンスで理念内容を話題とし、日々の介護の基本姿勢となるよう心がけている。新人研修でも最初にホームの理念と運営方針について説明している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・小学生が「地域探検」として来訪し利用者に手紙を渡してくれたり、PTA活動として車椅子寄贈もあった。中学生のトライアルウィーク、高校生のワークキャンプの受け入れや近隣の教会のゴスペルコンサートへの参加など、地域住民との交流も進んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は、リーダーがスタッフの意見を聞き、前回の評価内容との変化に注目して記入し、管理者がまとめた。職員は評価内容を日々の業務の反省とし、ケアを見つめ直す好機と考えている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回開催。ホームの運営状況や市の指導などの報告、改善点の検討を行っている。地域代表から地域の紹介やホームが開催した認知症講座の会場選定に協力をもらった。		
6	9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・日常は電話連絡が多いが、認知症講座などの行事で連携できた。生活保護者の事務連絡に来所する市職員にも事業所の報告をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・「さくらだより」に利用者の生活ぶりが伝わる写真を載せ、職員手書きの個々の近況報告を同封している。家族来訪時に小遣い帳の確認をもらい、職員異動も報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の来訪時やホームからの連絡時に意見や要望を聴取している。すべてを前向きに捉え職員全員で検討し、サービスの質の向上に活かすよう努めている。		・行事参加等での家族来訪時に、家族同士で交流できる時間を設定し、気楽に意見を出せる場づくりを工夫されてはどうか。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員との馴染みの関係維持のため、異動は最小限にしている。ホーム全体で音楽療法、編み物教室やゲーム大会等を行っているので、他階の利用者や職員とも顔なじみの関係ができています。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人全体の年間教育計画に従い、ホームも実施している。外部研修への参加も支援している。内部研修はOJTを基本とし、毎日のカンファレンスで必要に応じて介護工夫を話し合い、専門的なことは管理者が指導している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域の施設交流会に参加し情報交換を行っている。法人の4つのグループホーム連絡会には定期的に参加し、サービスの質向上のために検討を重ねている。		・地域のグループホーム連絡会は組織されていないが、地域の特徴を活かしたサービス提供となるよう連携してみたいかがか。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・見学はいつでも受け付け、入居希望の場合は、ホームの雰囲気や馴染んでもらうために時間をかけて面談し、生活歴などをアセスメントしている。入居当初は利用者が安心して生活できるまで、家族に来院や電話などの協力をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらかんがえあう関係を築いている	・生活の知恵や物を大事にすることなど、利用者のこれまでの人生に触れることが職員の学びとなっている。ほめ上手の利用者には元気づけられ、諺など言葉遊びが得意な利用者とは、言葉のキャッチボールを楽しんでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・利用者が言葉で思いを伝えられることは少ない。日々のふれあいの中で利用者の思いや考え方に気づき、チームで共有して統一したケアになることを心がけている。行動の一つひとつを利用者の思いとして受けとめ、支援につなげていけるよう努めている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・「利用者の特徴と支援の要点、生活リズムと援助内容」等の記録をもとに本人と話し合い、ケア担当者会議を定期的に行き、主治医や家族の意見も参考にして計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・原則6ヶ月に1回の見直しだが、体調に変化があったときは職員で話し合っって介護方法を変更し、本人や家族にも説明して計画見直しをしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・医療連携体制を取り、医師、看護師の指導や処置により、早期発見、再入院防止等の支援を行っている。また個別の外出や通院等にも柔軟に対応している。認知症の内部研修に、地域住民にも参加を呼びかけ、認知症の理解を広める取り組みを行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・入居時、本人・家族の同意を得て事業所の協力医療機関の医師をかかりつけ医としている。2週間に一度の定期往診と、急変時の診察、相談、指導等利用者が適切な医療が受けられる体制にしている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・3名の看取りを行なった。はじめての看取りの後 看取りに関する指針 ターミナルケアのマニュアル 「安らかな死を迎えるために」(家族用)を整え、主治医、訪問看護師、職員、家族が協力し、馴れ親しんだ関係の中で最期を迎えられる支援体制を作った。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・言葉かけや話題は利用者ごとの背景を考慮している。失禁等には羞恥心に配慮している。個人情報の保護について、職員の入職時に誓約書を取り、記録類の管理も漏洩しないようにしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・食事を中心に大まかな一日の流れは決まっているが、起床時間、入浴日等は利用者の希望を尊重して、できるだけ個別的な支援を心掛けている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・下ごしらえ、盛り付け、洗い物、テーブル拭き等できる範囲で職員と一緒にしている。食材は外注しているが、利用者の好みで柔軟な工夫をしている。職員も一緒に食事している。3時には手作りのおやつが出る。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・曜日を決めず、毎日希望に添えるようにしている。時間帯については、希望への配慮は充分ではない。入浴拒否の人には家族の協力や、声かけの工夫で週2回は入浴できるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・調理、洗濯、掃除等お願いできそうな仕事を頼むようにしている。利用者同士で世話をし合ったり、気遣ったりもしている。ボランティアや家族の協力もあり、個々の楽しみの支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・事業所の近くを散歩したり、近所へ買物に行くことは日常的に行っているが、個別の希望に応えるなどの外出支援はなされていない。		・事業所の周りを散歩するだけでなく、馴染みの場所へ出掛けるなどの、日常的な面での更なる工夫が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・昨年までは家族や地域の方の要望もあり施錠していたが、現在は事務室に職員がいるときは施錠していない。		・事務室に誰もいないときも、職員の見守りで日中施錠しない工夫はできないだろうか。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・年2回避難訓練を消防署に届け、夜間想定も含め、利用者参加で行っている。カーテン、リネン、カーペットは防災のものを使っている。運営推進会議やボランティアグループにも協力を求めている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・栄養摂取量・水分摂取量を定め、一人ひとりの摂取量を記録を通して把握し、不足している人には、好みや体調に配慮しながら確保できるよう支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・バリアフリーで転倒防止ができています。リビングは利用者が心地よく過ごせるよう、家具の配置と座席の配置に気を配っている。畳コーナーは、洗濯物をたたんだり、くつろげるスペースになっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・入居前の習慣に合わせて、部屋の使い方や馴染みの家具の持ち込み等可能な範囲で生活様式を継続して、居心地よく過ごせる支援がなされている。</p>		

 は、重点項目。